

いのちと地域を守る

「111」まで逃げる「確認」

揺れ対策と垂直避難も

スタートに遅れ、経路に懸念材料



「逃げ地図」を囲み、避難訓練の経路を話し合う参加者

「あつという間に時間がたってしまう」との声が上がり、避難準備の大切さを確かめた。

「避難訓練の大切さを確かめた」と話すのは、相模トラフ地震を想定した避難訓練の後、参加者が同市で公民館で訓練を振り返った。避難の手順や初めて活用した「逃げ地図」の有効性を話し合い、地域の防災課題として共有。命を守る避難に向けて意識を高めた。

参加した多くの住民がスタートに手間取った。一家や施設を出るまでに予想以上に時間がかかった。「持ち物をチェックして」

相模トラフ地震を想定した避難訓練の後、参加者が同市で公民館で訓練を振り返った。避難の手順や初めて活用した「逃げ地図」の有効性を話し合い、地域の防災課題として共有。命を守る避難に向けて意識を高めた。

参加した多くの住民がスタートに手間取った。一家や施設を出るまでに予想以上に時間がかかった。「持ち物をチェックして」



相模トラフ震源最大M8級も

神奈川県 死者14万人想定

平塚市を含め、神奈川県に大きな被害をもたらすのは、相模トラフ沿いを震源とする海溝型巨大地震だ。

相模トラフは、日本列島が乗る陸のプレートの下にフィリピン海プレートが沈み込む全長約250kmの境界域で、神奈川県西部から相模湾を経て房総半島沖で日本海溝に交わる。さらに地殻深くで太平洋プレートも複雑に影響し合い、これまでも大規模地震を繰り返して引き起こしてきた。

代表例は、10万5000人余りに犠牲になった1923年の関東大震災(大正関東地震)。房総半島を襲った津波などで1万人以上の死者を出した1703年の元禄関東地震や、1293年の永仁関東地震も、相模トラフが動いたとされる。

神奈川県は「大正型」や「元禄型」の関東地震が再来した

相模トラフ震源最大M8級も

「目標」一目で 浸水境界図示

地震発生後わずか6分で襲来する大津波から、どう身を守るか。迅速に避難するための手段として平塚市が普及を目指すのが、既存のハザードマップを工夫した「逃げ地図」だ。

津波に巻き込まれる危険がある浸水想定域から、域

平塚市 普及目指す



平塚市が作った「逃げ地図」の一部。津波避難の目標ポイント(赤丸)が目で見分かる

既存ハザードマップ改良「逃げ地図」

この仮定に基づき、目標まで3分以内の道路は緑、6分以内は黄、6分以上は赤で示した。自宅などが赤の道路に面している場合は特段の注意が必要で、より早く逃げるか、最寄りの津波避難ビルなどに駆け込むか、対策を考える必要があることが一目で分かる。

逃げ地図は、東日本大震災の教訓を基に大手設計会社が考案した。避難所の位置などは分かるものの、真先に目指すべき場所や避

震災体験者から

後悔を繰り返さないで



東北文化学園大1年 添田 あみさん(19) 東松島市

東松島市で被災体験を語り継ぐ活動をしています。当時同市大曲小6年。地震の後、いったん帰った自宅から母と学校に逃げ、間髪を留めず避難しました。親友を津波で失いました。迎えに来た親と海岸近くの自宅に戻り、犠牲になりました。私が最初に掛けた言葉は「バイバイ」。あの時、津波が来るから帰らなさい、と叫ばれた。今も後悔しています。皆さんに伝えたい教訓は「命を優先し、避難したら戻らない」。普段から備える「避難場所を家族で話し合っておく」です。あなたが命を落とすと、遭った人が悲しみます。私と同じ苦しみを繰り返してほしくない。備えの第一歩を踏み出してください。

最悪考えて 訓練真剣に



「震災語り部の会 ワッター」会長 菊池 敏夫さん(68) 宮城県亘理町

あの日は地震後、行政区長と徒歩で避難を呼び掛け回りました。でも、私自身が「ここには津波は来ない」と甘く考えていたので強くは言いませんでした。結果的に、その時見た姿が最期になった同級生もいます。もっと強く、ちゃんと声掛けすべきでした。津波が来る直前、巡回中の消防車に「早く後ろに逃げなさい」と叫ばれた。逃げた町役場事務所から自宅が津波で流されるのを見て、やっと事態の深刻さを理解しました。災害は「想定外」が基本です。日頃から最悪を想定し、備えておくことが命を守ります。地震後すぐに津波が来る平塚の皆さんは、津波避難ビルも含めて避難場所を定め、避難訓練は真剣に取り組んでください。

命最優先に今を生きて



高橋 匡美さん(52) 塩釜市

実家の石巻市南浜町に着いたのは震災3日後の3月14日。両親を捜しに入りましたが母が倒れていました。おちやめで明るい自慢の母、穏やかな顔でした。父を見つけたのは3月26日。遺体安置所でした。妻の色が進み、ほおほと泣いて硬い。「ごめんね」とつぶやきました。あの日の

振り返って 高い危機意識共有を

相模トラフ地震と東日本大震災との大きな違いは、津波の到達スピードだ。平塚市には地震後わずか6分で津波が押し寄せるという。まさに「時間との勝負」(市災対策課)。ほんのちよっとの避難の遅れが命取りにもなる。避難先や避難路を見直す必要がある」との声が上がった。地域のリスクに引き合う確かな姿勢を。むすび塾に住民らが臨む姿は真剣そのものだった。お年寄りの介助者は訓練をするたびに新たな課題に気づく。3人の子連れ

東日本大震災の体験を振り返り、専門家と共に防災の教訓や避難の課題を語り合ってみませんか。町内会や学校、職場など10人前後の小さな集まりが対象です。開催費用は無料。随時、開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室022(211)1591。次回のむすび塾は3月下旬、気仙沼市で開催。3月の「いのちと地域を守る」特集面は、むすび塾を共催した全国の地方紙、放送局の報告をまとめ、震災後に始まった各地の防災の取り組みを詳報します。